



保存版

子育てひろばのための災害対策ガイド

備えの 1 2 3 いち に さん

みんなで
話し合ってみましょう

東日本大震災を経験した多くの子育てひろばから、「避難訓練等、普段の備え以上のことはできなかった。行政との連携など課題が残った」というメッセージをいただきました。災害大国の日本では、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震など、災害はどこでも起こり得ます。そこで、ひろば全協では、各地のひろばの危機管理の知恵や、これまでの震災の体験談を伺い、皆さんのひろばで検討いただくためのツールを作成しました。いざという時に、利用者と共に子どもを守れる子育てひろばであるためにも、ぜひ、自分たちのひろばに合った備えを確認してください。



NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

※子育てひろば＝地域子育て支援拠点など乳幼児の子育て家庭の親子が交流する場のことを指します。

備えは大丈夫？

時に私たちの想定をはるかに超えておきる自然災害。「災害」そのものは防ぐことができなくても、「減災」に努めることはできます。下記のチェック項目を参考に、発生前から災害後の復興までを見据え、対策はしっかりできているか、確認しておきましょう。

備える
1

ひろばの中で

～準備・点検と話し合い～

- 環境 ・施設内の安全点検
- もの ・非常用持出品
・非常用物資
- ひと ・スタッフの役割
- ひろばに期待されている役割

備える
2

その時、慌てないために

～避難訓練とマニュアル作り～

- 避難訓練 ・避難訓練マニュアルの作成
・避難経路の確認
・年間計画表の作成
・避難訓練後のふり返し など
- 災害マニュアル ・そのとき! (災害発生時)
・安全確保ができたなら

備える
3

ひろばの外と

～連携と助け合い～

- 行政と ・緊急時の対応を協議する
- 地域・広域と ・助け合えるつながりを
- 利用者と共に ・ひろばの対応を考える
- 消防署と ・連携して防災を学ぶ

備忘録

一時避難所

広域避難所

緊急時の連絡先

2019年2月1日第3版発行

編集・発行 / NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

〒222-0037 横浜市港北区大倉山 1-12-18-303 TEL:045-531-2888 045-546-9970 FAX:045-512-4971

Email:info@kosodatehiroba.com http://kosodatehiroba.com

デザイン・制作 企業組合エコ・アド

— 住友生命創業 100 周年記念事業「未来を築く子育てプロジェクト」助成事業 — ※無断複製、転載を禁じます。

突然ぐらっと来たら？
まず、スタッフがあわてず落ち着いて行動することが肝心です。そのために日頃から様々な災害を想定した避難訓練を行い、それぞれのひらばで取るべき緊急時の行動をスタッフ全員で共有しておきましょう。

避難訓練

避難訓練を行うには、事前の準備が大切です。当日の流れなどスタッフ同士で話し合うことはもちろん、「避難訓練の意義」もみんなで共有しておきましょう。

避難訓練マニュアルの作成

- 避難訓練の意義について、スタッフ間で話し合う。
- 災害の種類・規模を想定して計画する。
- 災害時のリスクを全員で共有する。
- 訓練当日の流れをシミュレーションし、タイムテーブル表を作成する。
- 訓練開始前から実施後の流れまで
- 緊急連絡網を作成する。
- 主なスタッフや行政など

- 地震の規模
- 火災の有無や発生場所
- 水害の有無や発生場所など

避難経路の確認

- 施設の建物の状況に応じて、避難口や経路を確認し、全員で共有する。

年間計画表の作成

- 地震・火災・水害など災害の種類に対応した訓練や防災講習会の開催など、年間を通じた計画表を作成する。

避難訓練後の振り返り

- 学んだこと・改善点を話し合う。
- 当日参加しなかったスタッフへの報告と反省点を共有する。
- マニュアルの見直しを行い次回の訓練に活かしていく。

消防署への連絡

- 派遣を依頼する場合は、担当部署に連絡し実施日の調整を行う。

告知について

- 訓練の大切さを利用者にも理解してもらうように周知する。
- 事前に妊婦や参加しづらい人にも配慮した方法を考えておく。
- 町内会や同じ建物内の施設にも告知しておく。

事前打ち合わせ

- 当日出勤するスタッフを確認し、訓練の流れについて話し合う。
- 役割分担・当日までに準備するものを確認する。

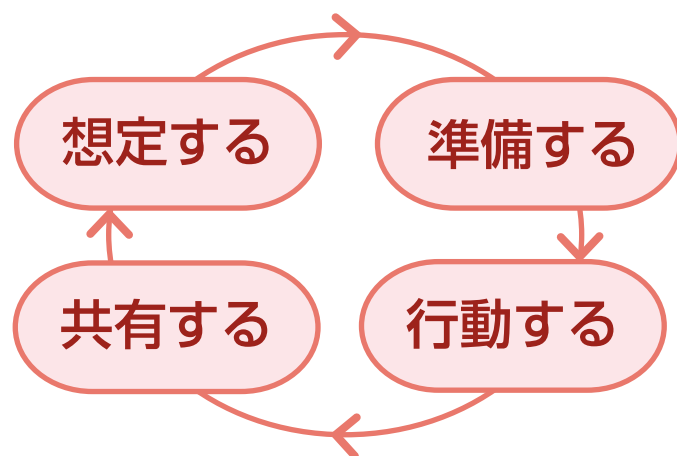
当日の準備

- 朝の開館時から、利用者には避難訓練の実施を周知する。
- 入口に「避難訓練実施中」、受付には「避難訓練の案内」を掲示する。



避難訓練開始

- マニュアル通りにはいかないことを訓練を通して理解しておく。
- 消防署（派遣要請をした場合）からの総評やアドバイスをもらう。



災害直後に乳幼児連れで遠い避難所には移動できず、近くの空き地に避難した後、指定避難所

靴箱が倒れて、靴を履いて避難するのが難しい状況だったので、転倒防止策が必要でした。

自分たちの地域の消防署からは、何も持たずに逃げるよう言われています。状況にもよりますが、人命優先の臨機応変な判断が大切です。

地域の青年団と一緒に避難訓練をしているので、いざという時かけつけてくれる安心感があります。

訓練はしていても、実際は書棚を押さえるので精一杯。命を守る最善の行動は何だったのか課題が残りました。

利用者の帰宅判断が難しかったです。あのタイミングでの帰宅が本当に良かったのか。交通機関、火災、津波などの情報提供が減災につながります。

災害マニュアル

災害発生時、とっさにできることは限られます。命を守るために、すぐにとるべき行動をわかりやすく簡潔にまとめ、見やすいところに掲示しておきましょう。



ぐらっときたら

- ひろばの中心部分に利用者を集める
- 落下物への注意喚起。特に子どもたちの頭を守る
- 出口を開けて避難経路を確保する

避難誘導

- 誘導するスタッフ・最後尾につくスタッフ、即座に動く
- 靴をはく・荷物や上着を着るが瞬時に判断する
- 利用者親子の手助け
- 逃げ遅れている人はいないか確認

ゆれがおさまったら

- けがや具合の悪い人はいないか声を掛け合う
- 防災頭巾・ヘルメットの配布
- 避難するかしないかの判断
- 電気ブレーカーを落とす

火災が発生したら

- 大声で火災発生を知らせる
- 消防署に通報
- 初期消火に努めるが、火が大きくなった場合は、すみやかに避難する



安否確認

- 受付名簿をもとに、不明者はいないか確認

救護

- 消防署へ連絡
- 救助が来るまでの応急措置

情報の収集と発信

- ラジオ・携帯等で正しい災害情報を入手
- 通信手段を確保（伝言ダイヤル・メール・HP など）

被害把握

- 建物の損傷があるかどうか

災害時の対応は、被害の状況や時間の経過によって刻々と変わっていきます。ひろばの中だけで判断せず、まずは行政としっかり連携を取ることが肝要です。また他の団体とのネットワークを活かし、相互援助できる体制を普段から築いておくことを心掛けましょう。

行政 と緊急時の対応を協議する

災害が発生したとき、まずは所轄の部署と連絡を取り連携することがもっとも重要です。自治体直営、委託、補助など、それぞれのひろばの運営形態によって対応すべき内容が異なりますので、担当部署と事前に協議をし、記録しておきましょう。また代表者だけでなく、スタッフ全員で協議内容を共有しておきましょう。

協議内容の例として

- 開館・閉館の判断の基準と決定者はだれか。
- 電話が繋がらないときの対応はどうか。
- 行政も被災した場合、どうするか。
- 人的、物的、建物などの被害の報告の項目は？
- 建物の大家、町内会、商店街など、行政以外に連絡が必要となる場所はどこか。
- 一時預かりを行っている場合、緊急時の判断基準は？
(親が迎えに来られないとき、いつまで預かるのかなど)
- 一時避難所や避難経路は行政と共有できているか。
(一時避難所・広域避難所・福祉避難所・地域の防災拠点等を地図に書き込む)
- 近隣住民がひろばに避難してきた場合の対応についてどうするか。
など



地域・広域 と助け合えるつながりを

普段から地域や他の団体とのつながりを持つことはひろばの大事な役割のひとつでもあります。そして緊急時には日頃のネットワークを活かして助け合っていくことが、災害後の復興への大事な足掛かりとなります。それぞれのひろばの状況に合わせて考えてみましょう。

例えはこんなこと

- 近所との交流は普段からしているか。
- いざという時、連携できる近隣の団体があるか。
- 地域のコミュニティや団体と緊急時の対応など話し合う場があるかどうか。
- 遠方の団体ともネットワーク作りをしているかどうか。
- 自分たちが支援できるとしたらどんなことか。
- 他団体との連絡先リストは作っているか。 など



知恵のつぼ

体験談

携帯電話もつながらず、被害状況や閉館の連絡をするために役所まで歩くのが大変でした。

行政だけでなく、心配された大家さんや商店街、町内会にも連絡を入れる必要がありました。ひろば単独での開館、閉館判断はできません。

一時預かりの保護者が迎えに来られない状況で、夜遅くまでスタッフが預かったものの、行政と対応を確認しておく必要がありました。

利用者の声として、行政が水や非常用物資を配布するときは、子どもを抱えてなかなか取りにいけないうので、ひろばに届けてほしいという要望がありました。



知恵のつぼ

体験談

地元青年会議所、中間支援NPO、災害支援NPOと日頃からつながっていたので、物資が早く届きました。

姉妹都市として自治体同士のつながりがあったので、その関係を通じて被災地に物資を送ることができました。

遠方の団体と交流があったので、災害時に不足していた物資が届いて助かりました。必要に応じて「助けて」と言える関係が大事でした。

地域の人たちがひろばに一時避難させてきて、その対応が大変だったので、そういう事態も想定して話し合っておくことが大切だと思いました。

利用者 と共にひろばの対応を考える

緊急時のひろばの対応について、利用者に周知する内容や方法を検討しておきましょう。また普段から、防災の意識を持ってもらうよう利用者と話し合っておくことも大切です。

例えはこんなこと

- 初めての利用時などに災害時のひろばの対応についてどう伝えるか。
例えば…開館・閉館の告知方法、非常口・避難経路、広域避難場所、緊急連絡先、防災頭巾・ヘルメットの場所など
- 一時預かり利用者(保護者)が迎えに来られないときの対応について。
- ベビーフードやおむつ、水など、家庭でも3日分の備蓄をしておくことや災害対策をしておくことを啓発する。
- 利用者となりを合わせて大人が子どもを守る場であることを伝える。 など



消防署 と連携して防災を学ぶ

消防署に連絡して避難訓練や講習会などを開催し、年に1~2回、防災について学ぶ機会を設けましょう。

例えはこんなこと

- 救命・救急の講習会を受ける。
- 避難訓練に参加してもらい、評価を受ける。
- 施設内の、防災対策についてアドバイスをもらう。 など

